

エス・ディー・ジーズ

SDGsってなんだっぺ?



最近、新聞やテレビでSDGsという言葉をよく目にしませんか? SDGsとは、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。

でも、そんな説明だけでは「よく分からない!」というのが正直なところではないでしょうか。今月号では、ちっくんと一緒にSDGsについて学んでみましょう。

S サスティナブル Sustainable (持続可能な)



「持続可能」ってどういうこと?



これまでの経済成長は、公害や自然破壊と引き換えに伸ばしてきたんだ。結果、地球は限界にきてしまっている。「持続可能」な社会を目指すためには「みんなでこの世界をどうしていきたいのか?」を考え直さなくてはいけないんだよ。

ちっくん
僕と一緒に
SDGsについて
学んでみよう!

D デベロップメント Development (開発)



「開発」って! まだまだ開発を続けるってこと?

先進国に住む私たちは、経済成長で失ってしまった自然環境や社会的課題を解決しなくてはならないんだ。



市民記者

国府田和弘さん

仕事の傍ら、現在、大学院で経営学を学ぶ。「企業の存在意義」を研究する中で、企業がSDGsを事業の根幹に据えて社会問題解決に取り組む姿に感銘を受け、自身もSDGsの普及に取り組む。

G ゴールズ Goals (目標)



「目標」ってどんな目標があるの?



17の目標があり、一人ひとりがどんな未来を描くのが第一歩。未来との対比で課題が見えてくる。一步一步パートナーと手を取り進む事が大切なんだ。

誰一人取り残さない! ~17のゴール(目標)~

SDGsは、2015年に国連が決めた、世界を変えるための目標です。「①貧困をなくそう」、「②飢餓をゼロに」、「③気候変動に具体的な対策を」など17のゴール(目標)があり、さらにその下に169のターゲット(具体的な目標)がまとめられています。2030年までの達成を目指し、「誰一人取り残さない」ことが宣言されています。

詳しい内容は外務省のホームページで確認できます。



※上記のパネルは、SDGs 17の目標から抜粋しています。

Q どうやって取り組むの？

A 同じような課題意識を持つ人と意見交換してみましょう。SDGsは地球規模の壮大な目標を掲げており自分ひとりでは到底解決できません。まずは、SDGsという共通目標のもと、お互いを受け入れ、**同じ課題を持つ人と協力して取り組んでみましょう。**

Q 何かやらないとだめなの？

A 義務やルールではありませんが、まず、自分はどういう課題に興味があるかを意識してみましょう。課題と思うものの根底には、愛があり愛するものを脅かされているため問題と認識しています。**一人ひとりが、愛する人のためにどのような未来を描くか**によって行動が変わります。

SDGsに少しでも興味を持った人は周りの人と話したり一緒に考えたりしてみよう！



Q だれが取り組むの？

A 私たち一人ひとりです。取り組む主体は、国連や各国政府だけでなく、民間企業や市民団体などあらゆる組織です。そして誰より私たち一人ひとりが課題意識を持って取り組む必要があります。

SDGsを理解するためのワークショップを開催します

「カードゲームで体験」する10年後の世界

SDGsって何？なぜ今SDGsが必要なの？どうしてこんなに注目を集めているの？壮大で意欲的な目標であるこのSDGsを、ゲームを楽しむことを通して体験していきましょう（定員40人程度）。



ファシリテーター
小林 博之さん

(株)ソーシャルキャピタルマネジメント代表取締役社長・グロービス経営大学院准教授

- 日時 **3月22日(日)**
13:30～(受付13:00～)
- 会場 **道の駅グランテラス筑西**
(多目的室 / 川澄 1850)
- 申込方法
3月9日(月)から16(月)までに、電話又は下記窓口へ直接申し込んでください。(先着順・土日除く)
※事前申込みは不可。
- 申込み・問い合わせ
広報広聴課(本庁4階) ☎24-2172

参加無料

すでに、SDGsに取り組んでいる企業や団体があります。その中でも、生徒主導でSDGsに取り組む、**岩瀬日大高校のプロジェクトチーム**を紹介します！



昨年11月にペアーノで行われた、下館青年会議所主催の「SDGs講演会・子供達の未来」で、SDGsの取り組み事例の発表を行ったみなさん。2月20日には横浜市で行われた国際会議にも参加しました。

岩瀬日本大学高校の「SDGsプロジェクトチーム」では、プラスチックごみや食品ロスの削減などに取り組んでいます。「自分たちも地球の未来を変える取り組みをしてみたい」と貧困や飢餓、環境問題、平等な教育などSDGsの理念を学びはじめ、地域の資源を活用することを思いつきました。「筑西市の梨も、キズがあって商品にならないものをスイーツに加工して販売することを企画しています」とリーダーの石島彩羽さん。器も土に還る紙の素材を使うという徹底ぶりです。

また、自転車の積極的な利用を促進しようと「ちゃりんりん」というグループでの活動も行っています。メンバーは「りんりんロード」の除草や清掃などを行い、サイクリング環境の改善に取り組んでいます。「母子島遊水地の『ダイヤモンド筑波』も下館駅からレンタサイクルで行ってきました」と「ちゃりんりん」のリーダー・高松愛梨さん。環境負荷の少ない公共交通や自転車利用の呼びかけも行っています。



地域の資源を活かして「SDGs」に取り組む



ボランティア部 顧問
よしえ
柴 佳絵 先生
(蘭城地区在住)

SDGsの学習をとおり、生徒たちは主語を自分に置き換えて考えるようになっていきます。世界や社会とのつながりを実感する機会になっています。